

中原特別支援学校の特徴や誇れるもの

- 知的障害、肢体不自由、病弱を対象とする特別支援学校である。
- 県東部地区の特別支援教育の拠点であると同時に、県内唯一の病弱特別支援学校として、障害のある子どもたちの「身近な地域での豊かな生活の実現」を目指して、地域の学校や団体、医療機関等と連携し、日々の教育活動を行っている。
- 分校舎では、東佐賀病院や若楠療育園、肥前精神医療センター、在宅への訪問教育を実施している。鳥栖田代分校は、県内初の小学校内に設置した特別支援学校である。
- 中原特別支援学校といえば「和太鼓」。約40年間「和太鼓」演奏に取り組んでおり、学校行事や交流活動の折にその雄姿を披露し、地域の方々大変喜ばれている。

本校舎所在地:三養基郡みやき町原古賀7262番地1
 本校舎連絡先:0942-94-3575
 児童生徒数:本校舎218名(※分校舎34名、鳥栖田代分校68名)
 本校舎・分校舎・鳥栖田代分校 計320名

校外販売会(中学部、高等部)

地域の商業施設において、作業学習で製作、生産した木工・紙・布製品・食品(菓子類)・野菜等の販売学習を行っている。

地域の方々には毎回、楽しみにしておられ、コミュニケーションを深め、広げる貴重な機会となっている。



大盛況の高等部販売会

ナーミー活動(地域交流活動 小学部、中学部)

みやき町中原校区の地域交流「ナーミー活動」は、「なかばるのみんな、みんな なかよし」を合言葉に、平成9年度から今年度(令和7年度)11月の第67回まで29年間続いている。

当初は、地域の河川清掃から始まり、現在は中原地区の小、中学校、老人クラブ、にこにこクラブ(旧婦人会)、地域の大学などの団体と本校児童生徒が年2回、一堂に会し、歌やゲームを通じた交流活動を行っている。この活動から地域の方々の本校行事への参加など、交流が広がっている。



ゲームで交流



「なかばるのみんな」一堂に会して

昔遊び交流会(中学部)

中原校区老人クラブ連合会の皆さんと一緒に、竹とんぼやお手玉、紙飛行機、おはじきなどの昔遊びで交流している。

日本に昔から伝わる遊びに興味をもつとともに、地域の方々との交流を通して、人間関係を広げ、豊かに暮らしていく力を高める活動である。



紙飛行機づくり

【学校の誇れるものの紹介】



学校のシンボル
「楠の木」



和太鼓演奏



本校キャラクター
「さんくすくん」